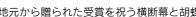
# 地域医療貢献奨励賞 受賞

受賞したのは、佐藤立行さん「地域医療貢献奨励賞」表彰式。「地域医療貢献奨励賞」表彰式。宣言を受け、東京と三角町をつ 「受賞の知らせを聞いて驚きま 地区に開業して以来、住民に愛93歳。昭和60年、戸馳島の無医 されながら診療を続けている。 93歳。昭和60年、 したが、ありがたく頂くことに しました。」と笑顔。 東京都の緊急事態

### 代々続く医者の家系

として従軍し、自身も海軍の軍柴三郎もいた。父と長兄が軍医日本細菌学の父と呼ばれる北里 校舎も焼け、 空壕に避難しました。医学校の 医学校ができると祖父の恭安が家系だったが、明治時代に熊本 にあった陸軍兵舎が仮校舎だっ 医を志したが、在学中に終戦。 西洋医学の道へ。同窓には後に 五男として誕生。 たんですよ。」と懐かしむ。 戦時中は空襲が多く、 男として誕生。代々漢方医の昭和2年、郡浦で並河医院の 戦後は熊本城の中 毎晩防







圭子さんと結婚。佐藤家の

佐藤鶴亀人戸馳村長の

オンラインで行われた表彰式であいさつ

地元から贈られた受賞を祝う横断幕と胡蝶蘭

療養所に勤務しているとき、

### 架ける、 養子となった。 後に三角町長として戸馳大橋を 福岡に研修にも行きました。」 たり。先進的な療養所があった て気管に管を入れたり麻酔をし 戸馳の国立療養所で医師となる。 行われていて、私は内科医とし 一部を切る手術も毎週のように 当時は結核患者が多く、

結果、 み病院の場所に移転し、 角病院として現在の済生会みす 重ねました。」と振り返る。その 医師会の先生方とも話し合いを 所長と一緒に厚生省や町役場、 各方面との協議に奔走。「藤原 に核となる病院を残したい」と 廃合される中、佐藤さんは「地域 なった結核。全国の療養所が統 昭和57年に国立療養所三 残った。

コロナ禍を機にリモート診察も始めた

## 地域のかかりつけ医に

特効薬が開発され「治る病」に

が一番大事です。まずは身近な **「患者さんのためには病診連携** 

かかりつけ医で診察し、

必要に

強く、ありがたいです。」と話す。 秀市さんは「長年佐藤先生に診。30年近く佐藤医院に通う橋柿 当時は連携が少なかったので、 応じて大きな病院に紹介する。 てもらっているので、 50歳で医院を開業したんです。」 自分が戸馳島でやろうと思い、 医師として9年。これからも 安心で心

住民の安心と健康を支えていく。

vol.58



た結核の治療に携わるため、

肺の

国民病といわれて